

度会町における

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

度会町教育委員会

令和8年9月

小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要について、度会町の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果や今後の取組みを以下のとおりまとめました。

「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されている全国調査です。また、そのような取り組みを通じて、よりよい教育のための継続的な検証改善サイクルを確立することが目的です。

しかしながら、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校及び家庭や地域での教育活動における数値化可能な部分の一側面です。このことを今回の調査において十分考慮し、今後の当町の教育について一層の充実を図っていくことが大切です。

1. 調査の概要

(1) 調査日

令和8年4月23日（木）

(2) 対象者

度会小学校6学年（60名）・度会中学校3学年（70名）で実施

(3) 対象科目等

小学校：国語・算数

中学校：国語・数学・英語

(4) 調査内容

①教科に関する調査

- ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

上記の2点を一体的に問い、検証を行うことにより、教科指導や学習状況の改善につなげる。

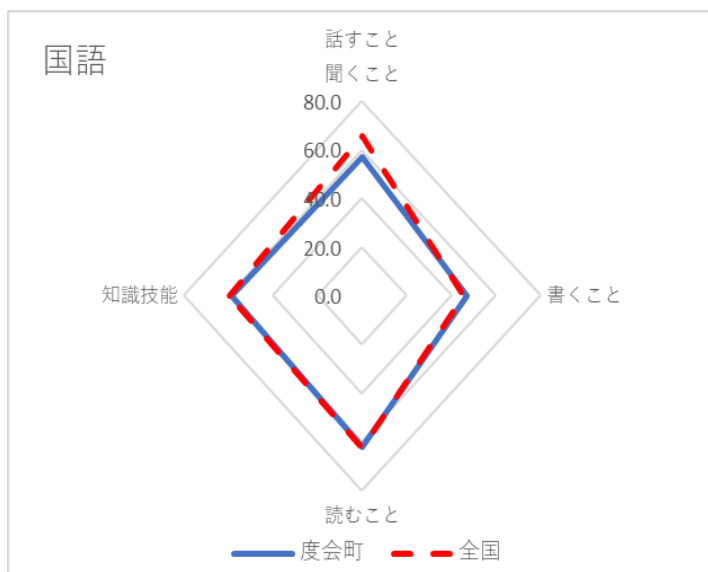
②生活習慣や学習環境等に関する調査

- ア) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する状況等を確認・把握する。
(児童・生徒質問紙)
- イ) 学校における指導方法に関する取組や学校における人物・物的な教育条件の整備状況等の確認・把握する。(学校質問紙)

2. 教科別概要

(1) 小学校国語

■領域別平均正答率の状況



■調査問題結果からみる傾向（強み○弱み△）

○学年別常用漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる力

(町 54.5% 県 46.4% 国 45.2%)

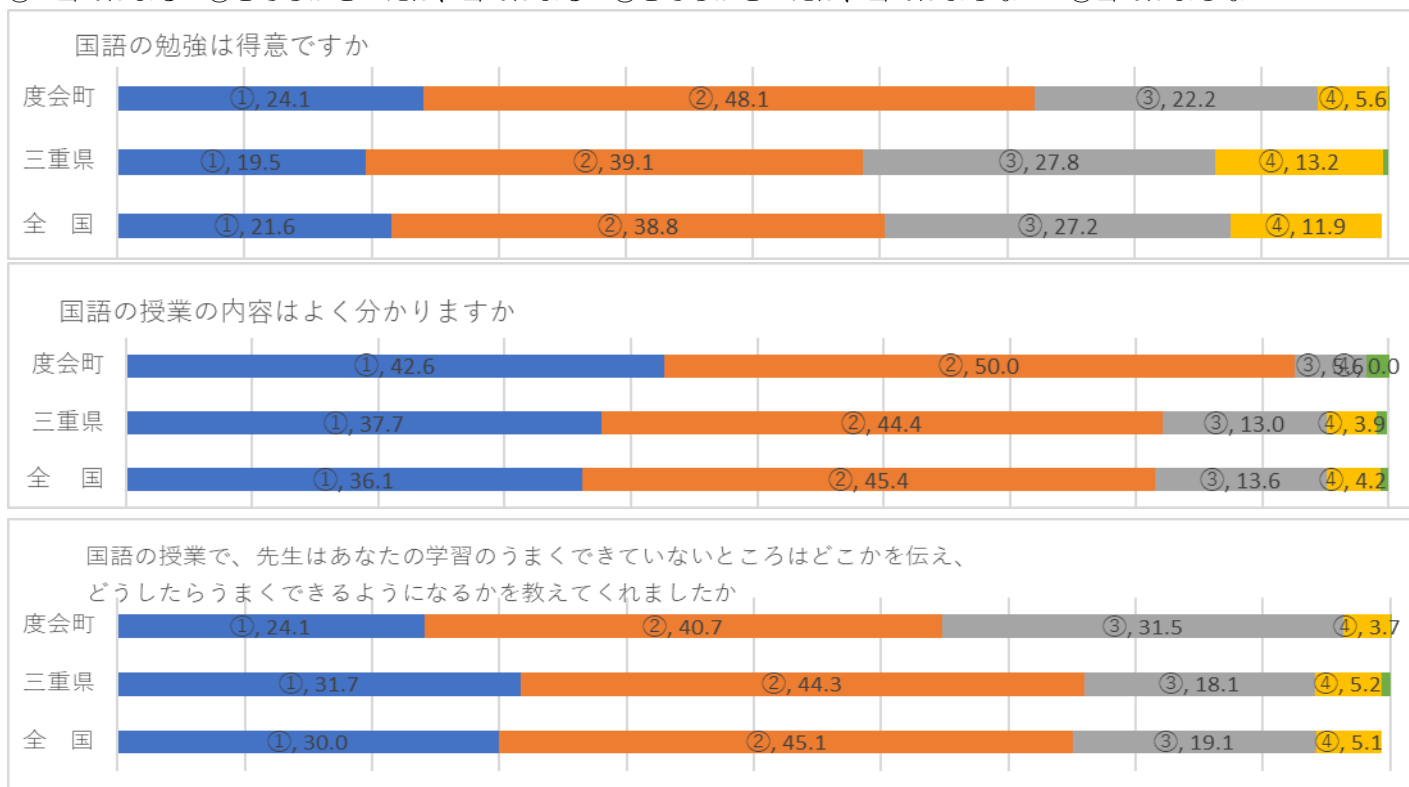
△資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する力（2問平均）

(町 52.7% 県 60.6% 全国 61.7%)

△目的に応じて、必要な情報を見付けることができる力

(町 47.3% 県 54.2% 全国 55.5%)

① 当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

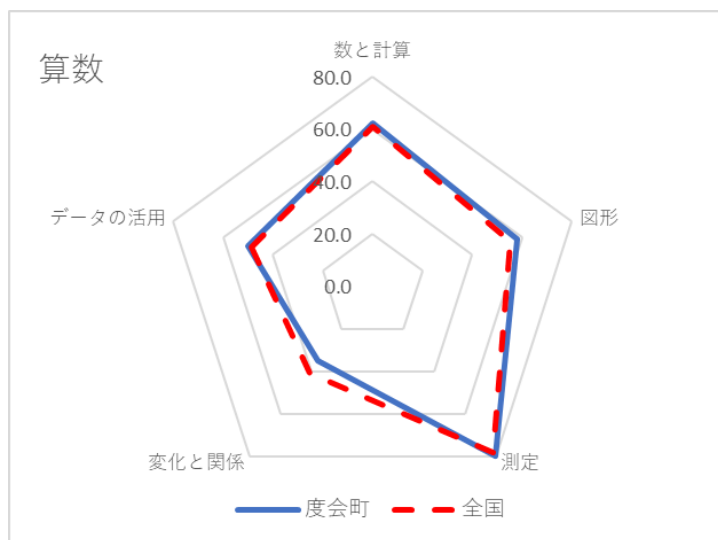


■全体的傾向と課題

- ・「国語の勉強は得意ですか」「国語の授業の内容はよくわかりますか」という問いに対し、①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる と回答した児童をあわせた割合が、県・全国と比べて高いことから、国語について苦手意識は特に持っていないことが読み取れます。しかし、「先生はあなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれましたか」という問いに対しては①当てはまる②どちらかといえば当てはまる と回答した割合が低かったです。今後、より子どもたちの学習過程についてフィードバックが求められているといえます。
- ・設問の結果から、目的や相手、状況などを踏まえて、話す内容と資料との整合、適切な時間や機会での資料の提示の仕方などに注意する力をつけていく必要があります。

(2) 小学校算数

■領域別平均正答率の状況



■調査問題結果からみる傾向 (強み○弱み△)

○立方体の体積の計算による求め方について理解する力

(町 85.5% 県 69.6% 全国 72.7%)

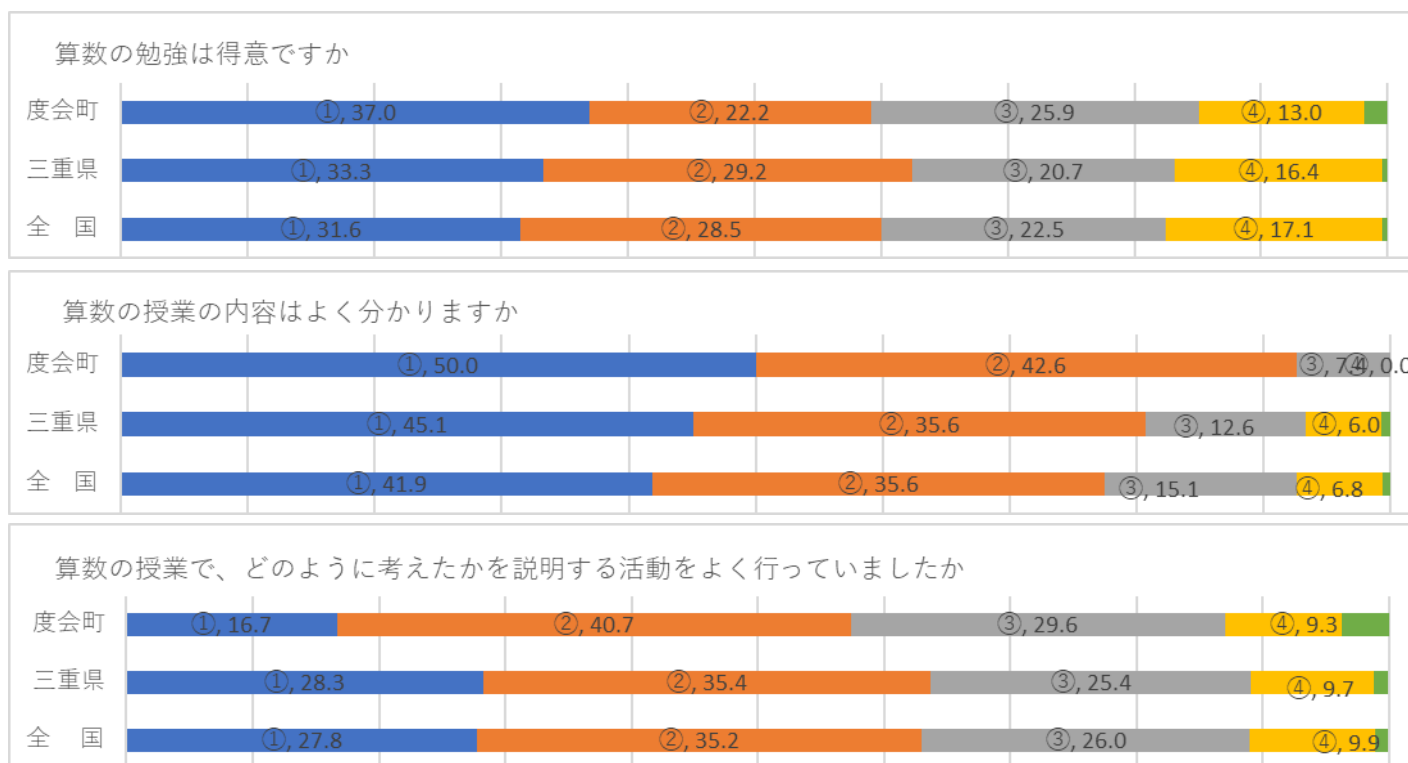
○異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述する力

(町 56.4% 県 41.2% 全国 44.0%)

△単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断する力

(町 20.0% 県 34.1% 全国 36.1%)

① 当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

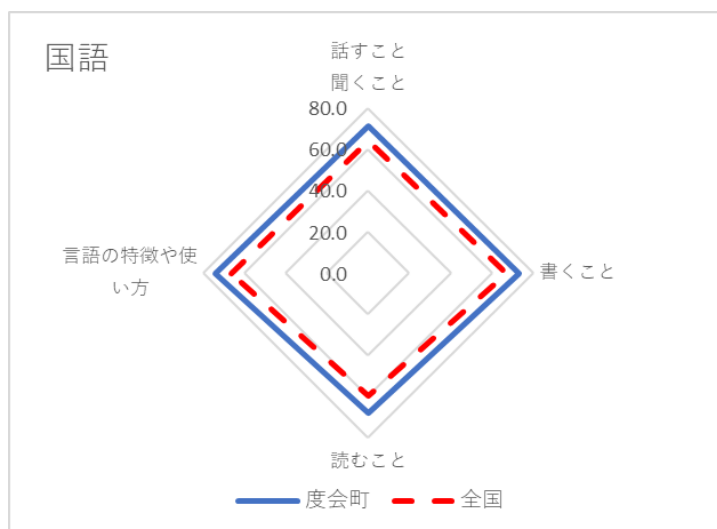


■全体的傾向と課題

- ・「算数の授業内容はよく分かりますか」という問いについて、①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる と回答した児童をあわせた割合が、県・全国と比べて大幅に高くなっています。また、「算数の授業で、どのように考えたかを説明する活動をよく行っていましたか」という問いについては、①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる と回答した児童が県・全国平均を下回ることから、自らの考えを言語化する活動を充実させる必要性があります。
- ・「変化と関係」領域以外は県・全国平均を上回っていたため、今後「変化と関係」領域を中心的に力をつけていく必要性があります。

(4) 中学校国語

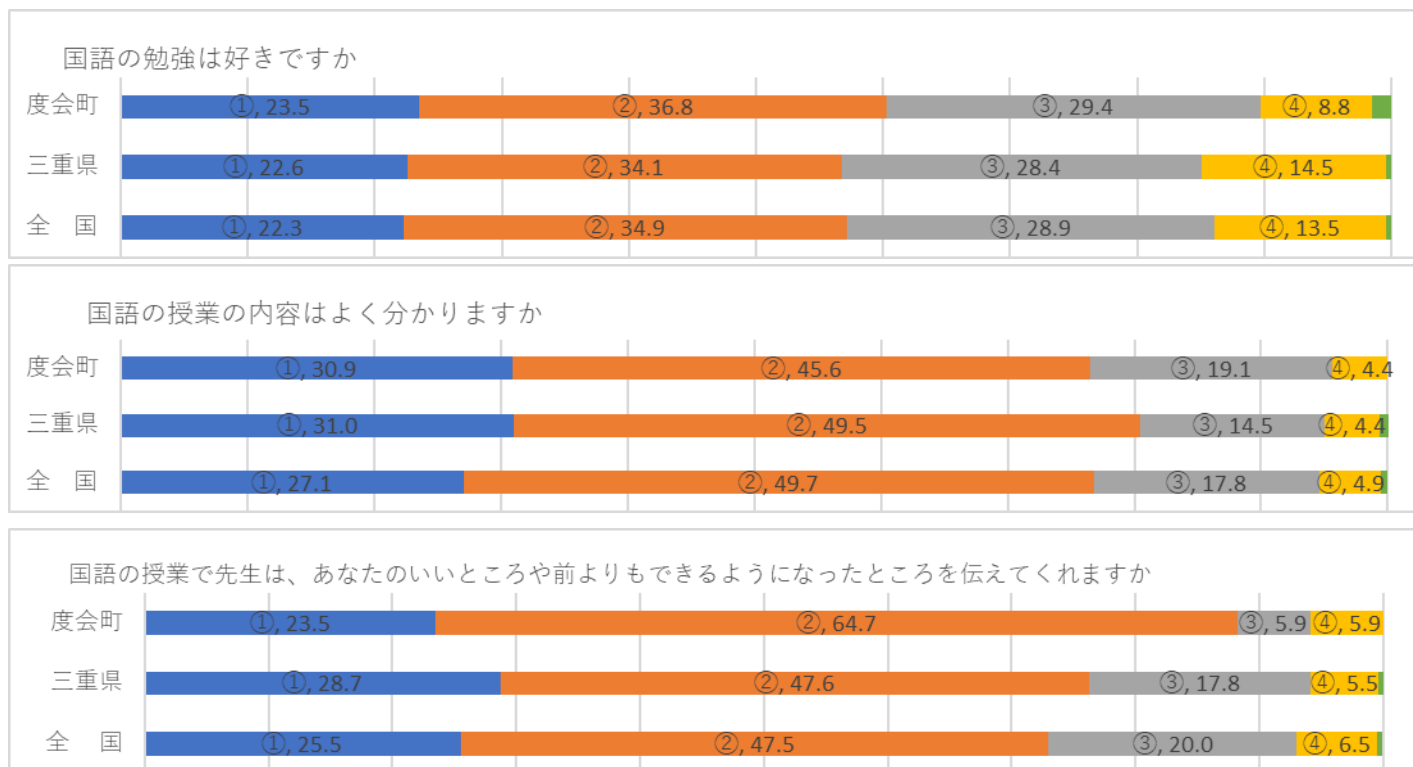
■領域別平均正答率の状況



■調査問題結果からみる傾向 (強み○弱み△)

- 必要に応じて質問しながら話の内容を捉える力 (町 82.8% 県 69.2% 全国 70.4%)
- 表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだす力 (町 56.3% 県 43.2% 全国 45.0%)
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる力 (町 50.0% 県 34.5% 全国 38.9%)

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

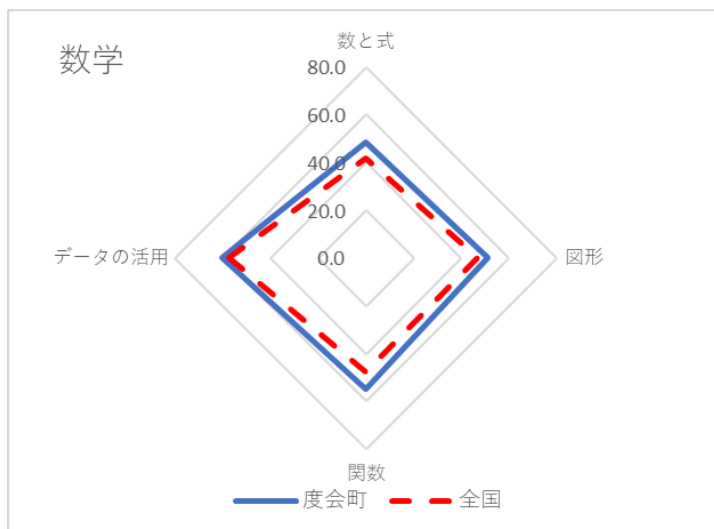


■全体的傾向と課題

- ・「国語の勉強が好きですか」という問いに関しては①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる と回答した生徒をあわせた割合が、県・全国と比べて高くなっているものの、「国語の授業の内容はよく分かりますか」という問いに関しては全国と同程度、県より低くなっています。
- ・「国語の授業で先生は、あなたのいいところや前よりもできるようになったところを伝えてくれますか」という問いに対し、①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる と回答した生徒をあわせた割合が、県・全国と比べて大幅に高くなっています。
- ・調査のすべての設問において県・全国と比べて正答率が上回っていました。

(5) 中学校数学

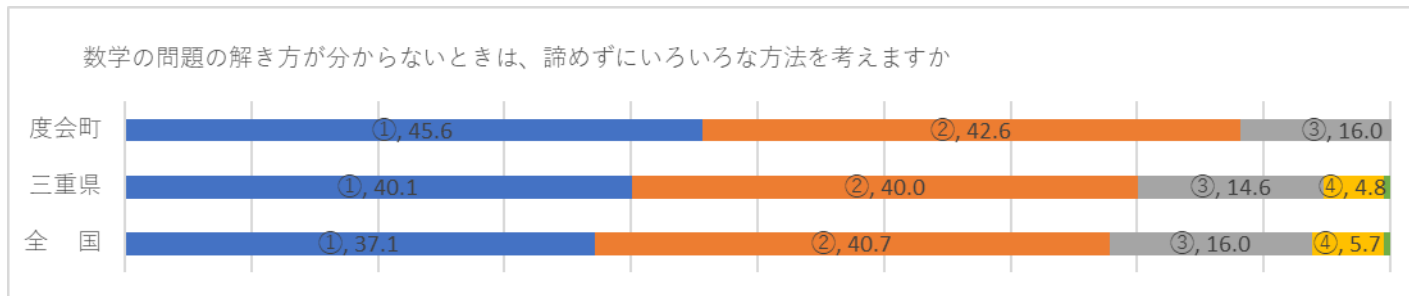
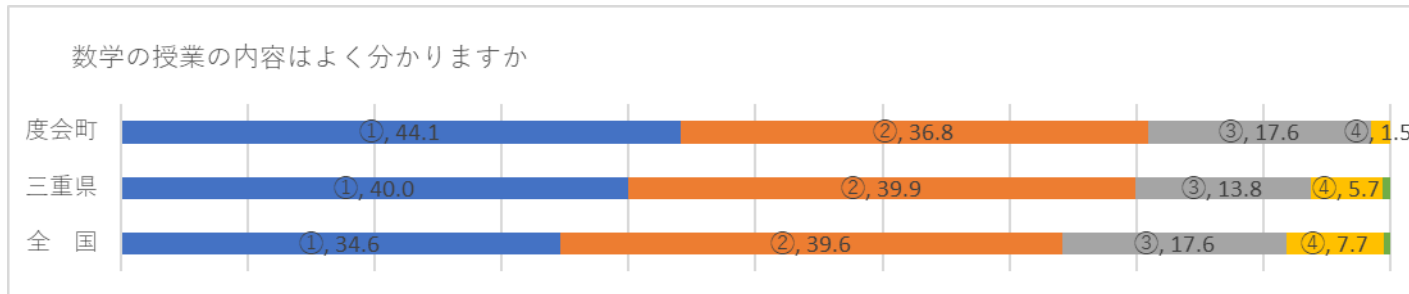
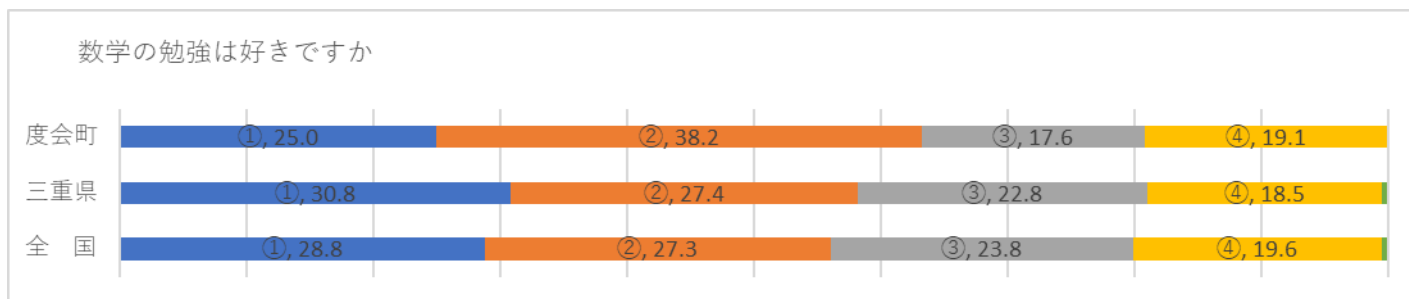
■領域別平均正答率の状況



■調査問題結果からみる傾向 (強み○弱み△)

- 2 直線が平行になるための条件を理解している (町 65.6% 県 46.0% 全国 49.1%)
- 筋道を立てて考え、証明することができるかどうかを考える力 (町 59.4% 県 48.2% 全国 46.1%)
- 統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明する力 (町 57.8% 県 41.2% 全国 44.6%)
- △ 累積度数の意味を理解している (町 35.9% 県 45.8% 全国 46.0%)

- ① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる ③ どちらかといえば、当てはまらない ④ 当てはまらない



■全体的傾向と課題

- ・「数学の勉強は好きですか」「数学の授業の内容はよく分かりますか」「数学の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」という問いに対し、①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる と回答した生徒をあわせた割合が、県・全国と比べて高くなっています。
- ・「図形」「関数」領域に関する設問では、すべての設問において県・全国と比べて正答率が上回っていました。

(6) 中学校英語

■調査問題の傾向

昨年の中学校理科から引き続き、中学校英語に関しては生徒が一人一台端末を用いて、文部科学省が開発した CBT システム (Computer Based Testing) 上で解答しました。問題は公開されている問題と、公開されていない問題に分かれています。幅広い内容・難易度の問題セットを用意しており、生徒ごとに違う問題セットで出題されました。

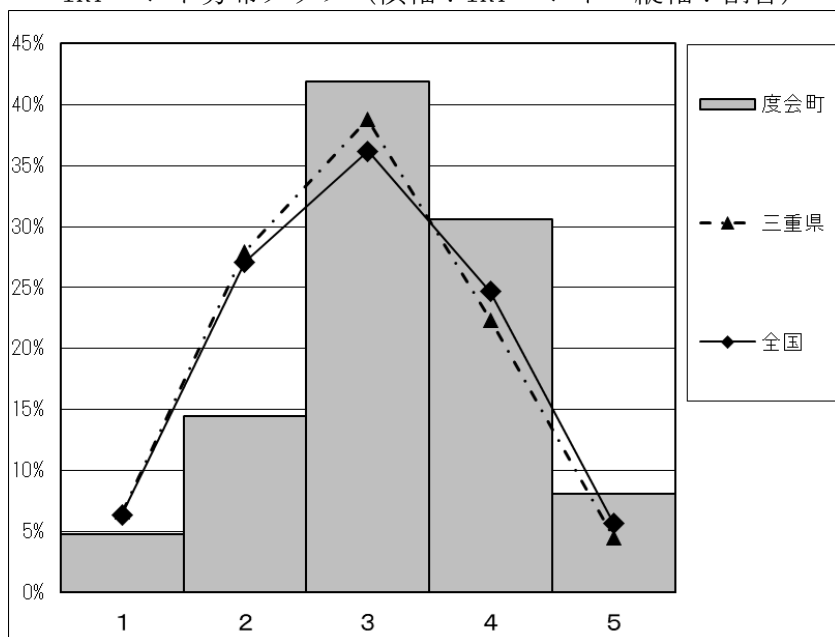
また、その結果を、これまでの結果分析とは異なる IRT (Item Response Theory : 項目反応理論) で行うこととなりました。結果については IRT を 2 つの視点から各校に公表されています。一つは、IRT スコアです。IRT スコアとは、「IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定」してスコアにするもので、「500」を基準にした得点で表します。例えば今年度の全国平均が「500」、とある自治体の IRT スコアが「505」なら、その自治体は全国平均よりも学力が高いと評価されたことになります。もう一つの視点は IRT バンドです。IRT バンドとは、IRT を 1～5 の 5 段階に区切ったもので、3 を基準バンドとし、5 が最も高いバンドです。

IRT スコア集計値

	平均 IRT スコア	標準偏差
度会町	520	95.5
三重県 (公立)	492	105.3
全国 (公立)	499	108.1

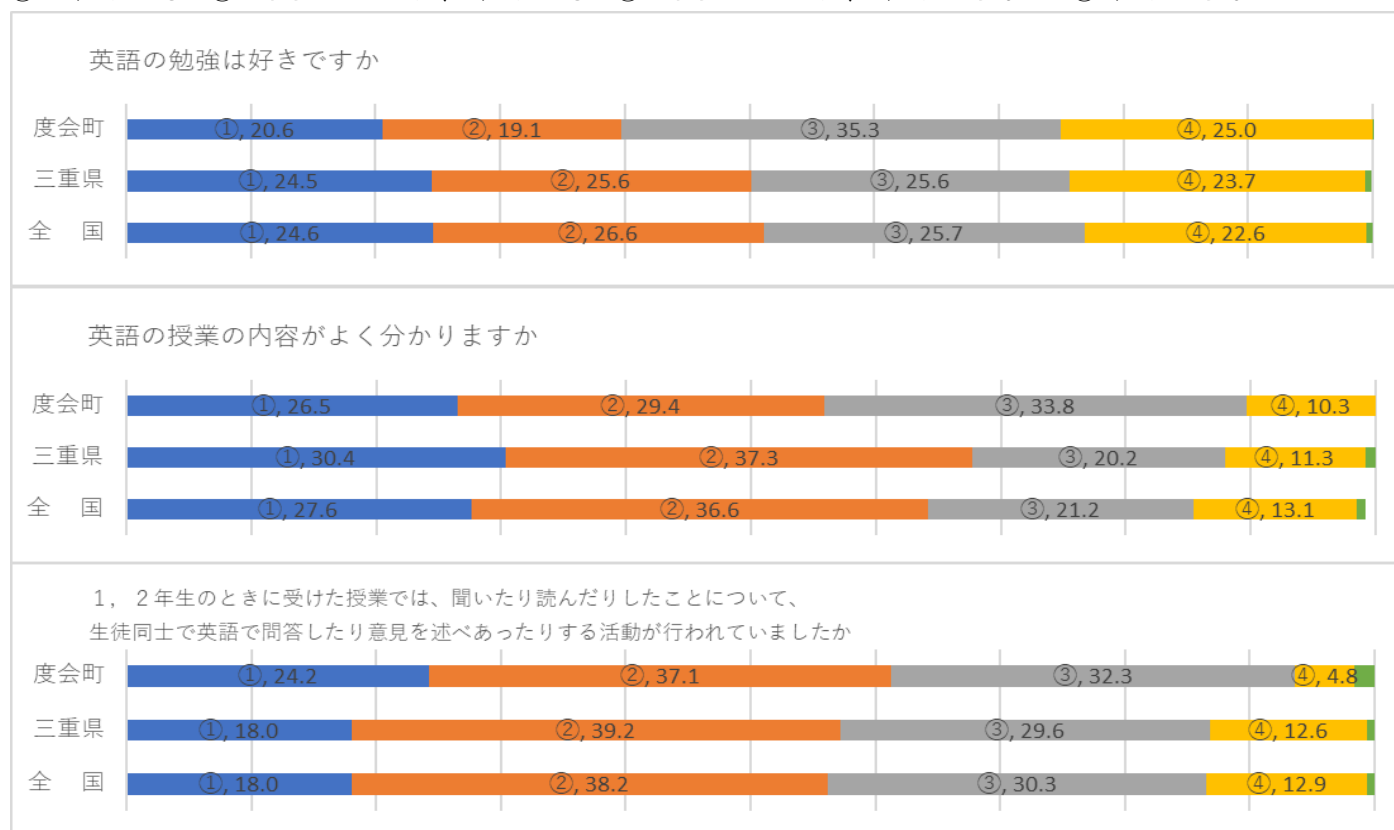
度会町の場合は、
平均 IRT スコアが 520 だったので
全国平均よりも上回っているといえます。

IRT バンド分布グラフ (横軸 : IRT バンド 縦軸 : 割合)



IRT バンド分布においても、
1・2の数値が県、全国平均より大幅
に下回っており、4・5の数値が全国
の値より 5 % 程度上回っていることが
読み取れます。

① 当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



■全体的傾向と課題

- ・「英語の勉強は好きですか」「英語の授業内容はよくわかりますか」という問いについて、①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる と回答した生徒をあわせた割合が、県・全国と比べて低いことから英語に対して苦手意識を持っていると考えられます。
- ・「1, 2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べあったりする活動が行われていましたか」という問いについて、①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる と回答した生徒をあわせた割合が、県・全国と比べて高いことから英語での言語活動は活発に行われているといえます。

(7) 各教科平均正答率の状況

<小学校>

(%)

平均正答率	国 語	算 数
度 会 町	59.0	58.0
三 重 県	61.0	55.0
全 国	60.9	56.4

<中学校>

(%)

平均正答率	国 語	数 学	英語 (IRT)
度 会 町	71.0	63.0	520
三 重 県	62.0	56.0	492
全 国	63.9	57.0	499

3. 児童生徒質問紙調査の概要

児童生徒質問紙は、児童生徒の生活や学習の様子をアンケート形式で問う調査のことです。

生活全般の諸側面や豊かな心の育成に関わること、学習環境に関わること等への問いがあります。各教科に関する主な質問紙調査結果については、2. 教科別概要でも掲載しています。

この項では、「豊かな人間性・学校生活・家庭生活（生活習慣・学習習慣）について」の4つの項目に係る主な調査結果と傾向について記載しました。

なお、特別に記載のない質問項目については、「している」「どちらかと言えばしている」又は、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合の合計を記載しています。

【豊かな人間性】

(%)

質 問 項 目		度会町	三重県	全国	全国比
自分には良いところがあると思いますか	小	90.7	84.7	85.6	5.1
	中	82.3	84.1	84.0	-1.7
将来の夢や目標をもっていますか	小	88.9	81.6	81.8	7.1
	中	76.5	68.4	67.6	8.9
人が困っているときは、進んで助けていますか	小	94.5	93.0	92.7	1.8
	中	89.7	90.7	90.8	-1.1
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	小	96.3	96.1	96.2	0.1
	中	95.6	95.4	95.1	0.5
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	小	96.3	95.8	95.8	0.5
	中	98.5	96.2	95.9	2.6

- ・「将来の夢や目標を持っていますか」の質問については、小学校・中学校ともに県・全国の平均と比べ持っていると回答した児童が大幅に多い結果となっています。
- ・小学校において、「自分には良いところがあると思いますか」の質問については、県・全国の平均と比べ高かったです。

【学校生活】

(%)

質 問 項 目		度会町	三重県	全国	全国比
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	小	75.9	70.5	70.6	5.3
	中	73.5	72.7	71.9	1.6
学校に行くのは楽しいと思いますか	小	92.6	84.8	85.7	6.9
	中	92.6	85.8	85.4	7.2
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	小	75.9	77.8	77.9	-2.0
	中	82.3	80.4	78.6	3.7
友達関係に満足していますか	小	96.3	91.2	91.1	5.2
	中	94.1	91.1	91.2	2.9
あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか	小	75.9	72.6	69.6	6.3
	中	75.0	71.0	67.5	7.5

- ・「学校に行くのが楽しいと思いますか」「友達関係に満足していますか」「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか」と回答した子どもの割合が小学校・中学校ともに県・全国と比較して高くなっています。
- ・自分が困ったり不安になったりした時に相談できる大人が学校にいる、と考えている児童生徒の割合が、小中学校ともに県・全国と比べ高くなっています。

【家庭生活（生活習慣）】

(%)

質 問 項 目		度会町	三重県	全国	全国比
朝食を毎日食べていますか	小	98.1	93.2	93.3	4.8
	中	98.2	90.7	90.9	7.3
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	小	88.9	82.5	82.8	6.1
	中	77.9	81.7	80.5	-2.6
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	小	88.9	90.8	90.7	-1.8
	中	89.7	92.7	92.4	-2.7
普段1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（学習やゲームの時間は除く2時間以上の割合）	小	64.8	59.0	57.6	7.2
	中	82.3	78.0	75.9	6.4

- ・小中学校ともに、起床時間に課題があることが読み取れます。また、中学校では安定した就寝時間について県・全国平均に比べて低いです。
- ・県・全国平均と比べてSNSや動画視聴する割合が大幅に高いです。特に、中学生に関しては8割以上の生徒が2時間以上視聴している結果となりました。

【家庭生活（学習習慣）】

(%)

質 問 項 目		度会町	三重県	全国	全国比
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	小	85.2	79.9	79.4	5.8
	中	79.4	79.7	78.2	1.2
平日、学校以外での1日あたりの学習時間（塾・家庭教師等含む）（1時間以上と回答した割合）	小	40.7	45.4	49.9	-9.2
	中	57.3	61.7	61.6	-4.3
土日や休日の、1日あたりの学習時間（塾・家庭教師等含む）（2時間以上と回答した割合）	小	3.7	12.5	17.1	-13.4
	中	23.5	26.4	29.9	-6.4
あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書はのぞく）（100冊以上と回答した割合）	小	35.2	28.0	30.7	4.5
	中	44.1	28.4	31.2	12.9

- ・家庭学習の時間は、小学校・中学校ともに県・全国に比べ短い傾向です。特に、休日の学習時間は大幅に少ないようです。

4. 全国学力学習状況調査を踏まえた今後の取り組みについて

小・中学校では、継続的な取組として朝の学習時間を有効活用しています。落ち着いた気持ちで読書をしたり、定着しきれていない箇所の反復練習をしたりすることにより、授業への集中、基礎学力の向上など、学習効果が上がっています。また、各学年に応じた家庭学習の提示とともに、「家庭学習の手引き」を配布することでご家庭と連携し、継続した子どもの学びの実現に向けた取り組みを行ってきました。

小学校では、朝の時間を活用して国語の漢字練習を重点的に実施しています。その成果が、今回の全国学力状況調査に表れています。中学校においても、一昨年より朝の読書時間を学習時間に変更し、ICTを活用して自分の苦手とする教科、単元を中心に自主的に学習する活動を行っています。授業でも、生徒の自主性を重んじながら子ども同士の学び合いを重視した展開をしています。

また、一昨年度から度会町では一小一中の強みを生かして義務教育9年間を系統立てて成長を促していく一貫教育の構築を始めています。昨年度からはこれまで中学校で大切にしてきた「W-S T Y L E（わたらいスタイル）」を小学校でも発達段階を考慮しつつ導入しました。子ども自らが規律を守ることで互いを思い合い、居心地がよく安心して学ぶことができる環境づくりとともに、子ども自らが学びに向かい、継続して学び続けようとする姿をめざして、教職員の指導の統一化の徹底を図っています。

小中学校において、ICT機器を積極的に活用した授業を行っています。学齢に応じて家庭への持ち帰りも積極的に行い、家庭学習や自主学習等学びのツールとしても子どもたち自らが効果的に活用するスキルが向上しつつあります。

さらに、算数・数学の授業において、習熟度別の学習を行っています。既習事項の定着度や理解度に応じたクラス分けを行うことで、じっくり考えたり、いろいろな問題を解いたりして、子どもたちが意欲的に学習に取り組む姿が多く見られるようになってきました。

主体的・対話的で深い学び・途切れない学びの実現を通し、一人ひとりの学力向上、誰ひとり取り残さない教育の充実を目指しています。

今後も一貫教育を柱として、学校・家庭・地域が更なる連携を図り、子どもたちが「度会町で学ぶ」学習環境・学習内容の充実に取り組んでいく必要があります。ご家庭や地域の皆さまには、今後も教育活動へのご理解・ご協力とともに、ご家庭や地域における子どもたちの成長へのサポートを、これからもよろしくお願いいたします。